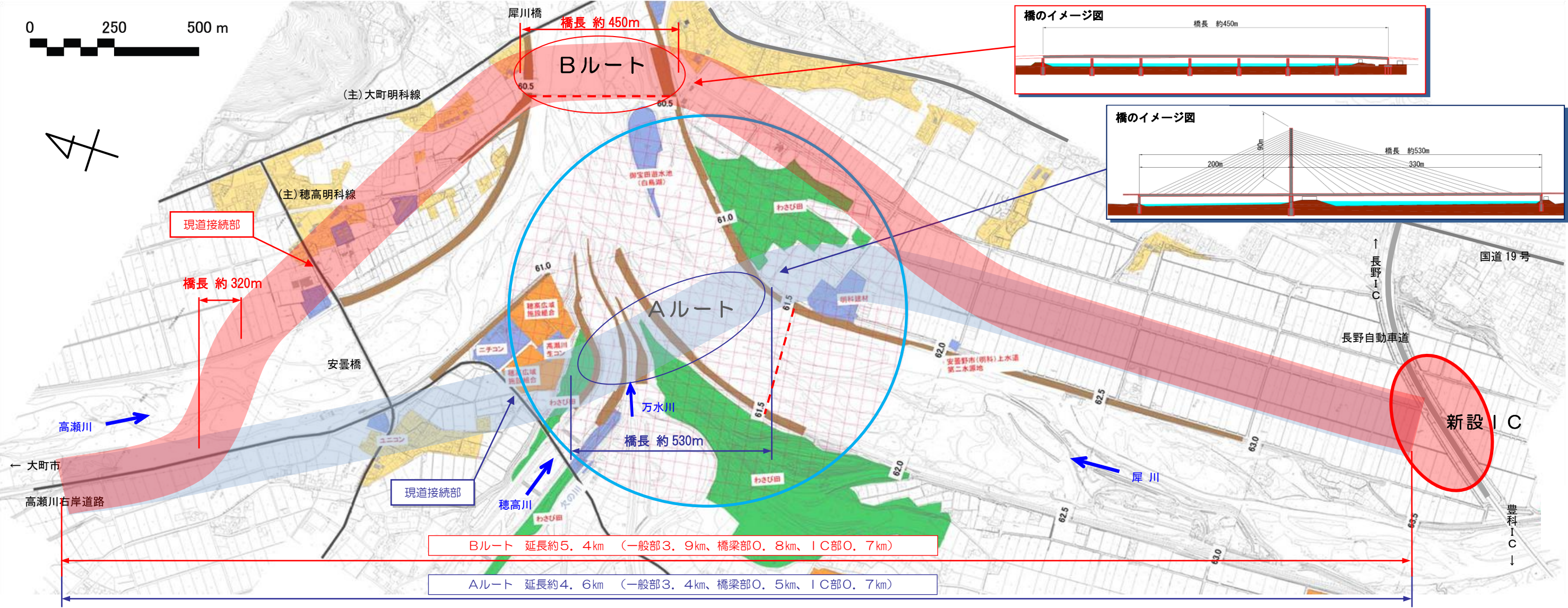


地域高規格道路 『松本系魚川連絡道路』 安曇野地域の概略ルート案



コントロール施設凡例

- わさび田
- 工場・養魚場
- 公益・商業施設
- 既存集落
- 地下水の流動が複雑な区域
- 鳥類の確認位置

松本系魚川連絡道路の基本的な道路構造

○サービス速度は概ね時速60キロ
○車線数は原則2車線
○主な道路との交差点は立体化

(概略ルート案について)
○この図は、概ねのルート帯を示したもので、道路の詳細な位置を決めたものではありません。
○今後、さらに詳細な調査を進めてルートを決めてまいります。

ルート名称		Aルート（高瀬川右岸側）			評価	Bルート（高瀬川左岸側）			評価
ル　　ー　　ト　　概　　要		・長野自動車道から分岐して三川合流部を通過し、高瀬川右岸道路へ接続するルート ・高瀬川右岸道路に現道接続部（出入口）を設置			—	・長野自動車道から分岐して高瀬川の左岸へ渡り、高瀬川右岸道路へ接続するルート ・（主）穂高明科線に現道接続部（出入口）を設置			—
走　り　や　す　さ		・理想的な道路線形で非常に走りやすい（最小曲線半径 260m、最急縦断勾配 5%）			◎	・Aルートに比べると走りやすさでやや劣る（最小曲線半径 150m、最急縦断勾配 5%）			○
道　路　の　構　造　と つ　く　り　や　す　さ		・河川を渡るための長大スパンの橋（斜長橋）が必要であり、技術的難易度が高い ・施工時の地下水流動の解析や施工方法の選定など、技術的難易度が高い			△	・河川を渡るための橋が2本必要 ・橋の設置は、河川や周辺土地利用の制約条件が少ないためつくりやすい ・高瀬川左岸側の集落内は高架構造となる			◎
経　　済　　性		概算工事費 265 億円	概算用地補償費 25 億円	概算事業費 290 億円	△	概算工事費 170 億円	概算用地補償費 25 億円	概算事業費 195 億円	○
環　　境	河　　川	・川幅が狭く、水の流れが当たり易い上に、三川が合流する箇所であり、洪水時の流れの乱れによる堤防の破壊や、部分的な河床の深掘れによって構造物が不安定となるおそれがあるため、河川内への構造物設置が制限され、長大スパンの橋となる			○	・三川合流の影響が小さい箇所となるが、橋脚配置にあたっては配慮が必要となる。 ・下流の犀川橋との近接に対する配慮も必要となる。			◎
	地　下　水	・湧出域を通過し、わさび田の湧水（地下水）へ影響するおそれがあるため、構造物の設置が困難			△	・湧出域の区域外を通過するため、地下水への影響は小さい			○
	動　植　物	・当該地域には稀少な動植物が生息しており、実施にあたっては配慮が必要 ・橋梁がコハクチョウの飛翔ルートを阻害する懸念がある			△	・当該地域には稀少な動植物が生息しており、実施にあたっては配慮が必要 ・飛翔ルートに近接するが、Aルートに比べ影響は小さい			○
周　辺　土　地　利　用		・犀川右岸側の水田を斜めに横断する区間が少ない			○	・犀川右岸側の水田を斜めに横断する区間が多い ・高瀬川左岸側の集落内を通過するため配慮が必要			△
総　合　評　価		△				○			
以上により、Aルートは課題があり実施困難なため、Bルートを基本に詳細な調査を進め具体的なルートを決めていく。									